



SAFETY



ANSHIN



WELL-BEING

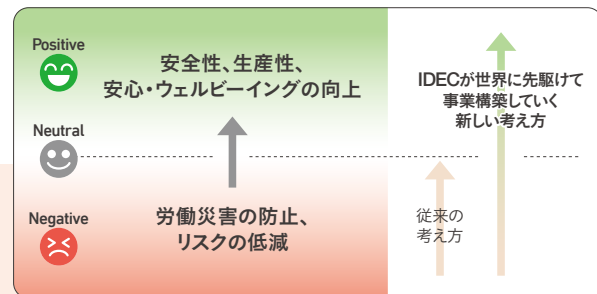
# 特集

# 安全・安心・ウェルビーイングの 実現に向けて

IDECは1945年に和泉商会として創業した当初より、「人間性尊重経営」を掲げており、これがIDECのウェルビーイングの原点となります。

2019年に制定した経営理念『The IDEC Way』でも、Vision、Mission、Core Valuesの基盤として人間性尊重経営を位置付け、社員のウェルビーイング向上のためのさまざまな取り組みを行っています。

また、パーパスである「人と機械の最適環境を創造し、世界中の人々の安全・安心・ウェルビーイングを実現する」ために、人はミスをするもの・機械は故障するものという前提で、不測の事態でも「人の命を守る」ことができる製品を開発するとともに、誰もが安全かつ健康で、幸せに、生き生きと暮らすことができる社会の実現を目指しています。



※ 出典：日経BP「実践！ウェルビーイング」

## The IDEC Way

経営理念

**Vision** いつも、ずっと、みんなに新しい安心を  
私たちが目指す未来 Pioneer the new norm for a safer and sustainable world.

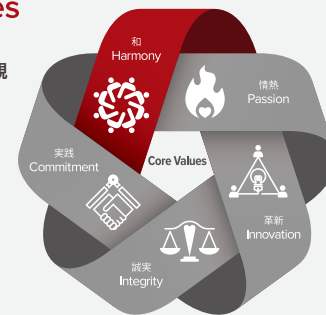
ものづくりの未来と新たな可能性を創造し、明日の「当たり前」となる、新しいスタンダードの開拓者となります。そして、全ての人々に幸福と安心をもたらす、より安全で持続可能な社会の実現を目指します。

**Mission** 人と機械の最適環境を創造  
私たちの使命 To create the optimum environment for humans and machines.

人と機械の接点となるインターフェイスにおいて、使いやすさと安心を追求した製品やサービスをご提供することで、新たな価値を創造し、社会課題の解決に貢献します。産業現場から日常生活までの幅広いシーンで、安全性、操作性、信頼性、環境負荷低減など、多様なお客さまのニーズにお応えします。

### Core Values

私たちが共有するべき価値観



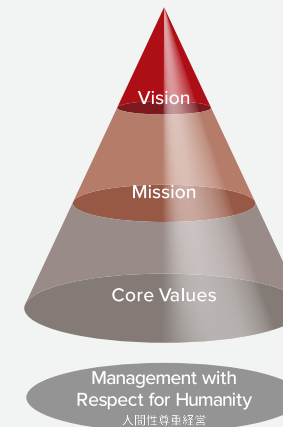
**Harmony 和**  
ビジョン実現のために全てのステークホルダーと協調する。

**Passion 情熱**  
常に情熱と誇りを持って、楽しく最高のパフォーマンスを追求する。

**Innovation 革新**  
お互いの個性を活かし、失敗を恐れず挑戦することで、進化し続ける。

**Integrity 誠実**  
何事にも真摯に向き合い、誠実・公正に行動することで、信頼される存在であり続ける。

**Commitment 実践**  
オーナーシップを持ち、スピーディーかつ効率的にそれぞれの役割を遂行する。



マテリアリティの一つとして、「安全・安心および健康で豊かな生活の追究・実現」を掲げ、サステナビリティKPIを設定しています。

関連するマテリアリティ



安全・安心・ウェルビーイング

安全・安心および健康で豊かな生活の追究・実現

主なサステナビリティKPI(2022~2024年度)

- 安全・防爆事業の売上高年平均成長率(過去5年間) **15%**
- 安全・防爆セミナーの累計受講者数(国内) **前年度比5%増**
- 安全に関する累計資格者数※ **前年度比3%増**
- 労働災害度数率(IDECS単体) **0**

※セーフティアセッサ、セーフティベシクアセッサ、ロボットセーフティアセッサ、セーフティオフィサの資格を持つ社員数

社員の健康維持増進と安全文化の構築

IDECグループでは、社員とその家族が「心身ともに健康である」ことが全ての基盤であるという認識のもと、「IDECグループの健康宣言」を制定しています。ウェルビーイング向上のための第一歩は、社員の安全と健康の確保であることから、職場における怪我や病気などの原因を取り除き、未然に防止する取り組みを推進しています。

社員の健康のために、カフェテリアで健康的な食事を提供するとともに、フィットネスジムやヘルスケアセンターなどを備えた厚生棟を2019年に本社構内に新設し、専属産業医と常勤の保健師が健康管理に取り組んでいます。2022年には、企業内診療所を本社厚生棟に開設し、全ての社員のメンタル、フィジカル双方からの健康確保を目指しています。



カフェテリア



フィットネスジム



企業内診療所

Vision Zero 活動の推進

「人の命を守る」製品を開発・提供する企業として、制御技術をコアとする、さまざまな製品やサービスを社会に提供してきました。誰もが健康で、幸せに、生き生きと暮らせる社会を実現するためには、高い性能と使いやすさを有し、品質の安定した製品を供給する技術面だけでなく、人材教育や、基準・標準などのルール形成・対応、またウェルビーイング実現のための経営層のコミットメントが重要です。そのため、Technology(技術)、People(人材)、Rulemaking(社会ルール)、Management(マネジメント)の4つの側面から、さまざまな取り組みを推進しています。

活動の一環として、国連の専門機関であるILO(国際労働機関)傘下のISSA(International Social Security Association)が推進する、労働安全衛生のVision Zeroキャンペーンに2018年に日本で初めて賛同、登録し、専門部署を設置しました。Vision Zeroキャンペーンとは、トップマネジメントが主導し、労働現場での災害、疾病、職業病、怪我などを防止することにより、社員の安全・健康・ウェルビーイングの向上を目指す活動です。



2019年に、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格であるISO 45001を滝野事業所で初めて取得しました。取得前からVision Zeroが発行する、事故ゼロと健康的な仕事のための7ゴールデンルールに基づくアプローチを行っており、毎年到達度を調査しています。活動の結果をレーダーチャート化することで、改善が必要な優先項目が明らかになり、迅速に対策を行うことで社員の安全・健康・ウェルビーイング向上に寄り添った活動となります。継続的な活動により、社員が安心して働ける職場づくりが実現できています。なおISO 45001は、2022年に国内の全生産事業所(滝野・福崎・尼崎・竜野)で取得しており、海外では2022年度に蘇州で取得し、今後台湾、タイ工場にも拡大し、7ゴールデンルールに基づくアプローチを展開していく予定です。



## 安全人材の育成

人材面では、セーフティアセッサ、セーフティオフィサ等の安全資格取得を奨励しており、安全・安心を社会に提案できる人材の育成を図っています。資格の受検費用や資格更新費用を会社が負担し、最上位資格である「セーフティリードアセッサ」の有資格者数は国内トップとなっています。

また、ロボット分野の基本安全知識の保有を認証する「ロボットセーフティアセッサ」資格や、管理系を対象とした労働安全マネジメントに関する知識と遂行能力を測る「セーフティオフィサ」資格などの取得も奨励しています。

ものづくりに関する豊富な経験と安全に対する高度な知見を活かし、産業現場におけるリスクアセスメント支援や、リスク低減方策の提案・構築など、安全性と生産性の両立を目指す安全コンサルティングも実施しています。

(2024年3月時点)

技術系を対象とした安全知識レベルと設計能力を測る資格

セーフティアセッサ、セーフティベーシックアセッサ、ロボットセーフティアセッサ有資格者数

586名

管理系を対象とした労働安全マネジメントに関する知識と遂行能力を測る資格

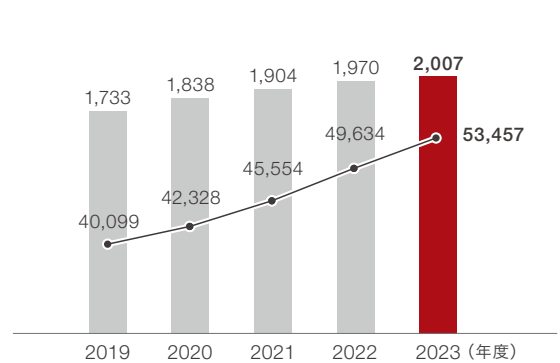
セーフティオフィサ有資格者数

123名



その他にも、お客さまに正しく安全関連機器、および防爆関連機器を使っていただくための基礎から応用、そして実践までの無料のオンラインセミナーを開催しています。また、世界で一番、安全・安心・ウェルビーイングを追求・実現する企業となるため、全社員へ安全教育を実施しています。2020年度は国内グループ会社を対象を広げて安全研修を実施し、2021年度は海外の主要生産拠点である、中国の蘇州工場の幹部社員に安全教育を実施しました。2022年度以降はタイ、台湾工場の幹部社員を対象に安全研修の拡大を図っています。安全研修では、IDECの安全に関する歴史や考え方、安全製品、Vision Zeroや協調安全(Safety2.0)など最新の情報を学ぶとともに、研修後の理解度テストにより知識の定着を図っています。

安全セミナー・防爆セミナーの累計受講者数および開催回数 (IDEC単体)



## ウェルビーイングサーベイの実施

2023年から、7ゴールデンルールをベースによりウェルビーイングに焦点をあてた、「職場のウェルビーイング向上に関する取り組み度」を測るサーベイを実施しました。これはデンマークのHuman House社と、欧州のサーベイを日本に適用できるよう共同開発したものです。職場のウェルビーイングとは、不安のない心の状態で、安心して生き生きと、充実感を得ながら働くことができる状態を意味し、その実現に向けての取り組み度を測定しています。

今後は、グローバルで同じ基準のサーベイを実施することで、課題の抽出や、社員のウェルビーイング向上のためのロードマップ作成などを推進していく予定です。

## 協調安全(Safety2.0)の推進

IDECグループでは、人と機械が協調し、安全と生産性の両立を実現する、協調安全(Safety2.0)を積極的に推進しており、多様な製品ラインアップの拡充を推進しています。

安全・防爆事業 P.36

2024年1月には、日本初の新たな安全の考え方である協調安全(Safety2.0)の現場導入を促進し、国際規格の作成を推進するための組織が一般社団法人セーフティグローバル推進機構(IGSAP)に作られ、IDECも参画しています。トヨタ自動車株式会社などの国内有力企業13社に加え、経済産業省がオブザーバーで参画しており、官民連携で活動を推進しています。

## 第1回 ISSA Vision Zero Award受賞



これまで取り組んできた活動を世界的にご評価いただき、2023年11月、ISSAが創設した「第1回 ISSA Vision Zero Award」を、これまで共に活動を推進してきた2社(IGSAP、日本認証株式会社)と共同で受賞しました。権威ある国連関連機関から表彰を受けたのは、IDECの創業以来初めてとなります。

オーストラリアのシドニーで行われた、ILO・ISSA主催の「第23回世界労働安全衛生会議」で表彰式が行われました。

創業間もない1950年に開発した、SB形金属箱開閉器に、作業者の安全を守る二重化インターロック機構を採用して以来、安全思想はIDECの「安全DNA」として現在まで受け継がれています。

IDECグループでは、人と機械が協調し、安全と生産性の両立を実現する協調安全(Safety2.0)の実現に向けた各種取り組みを行うことで、安全・安心・ウェルビーイング向上といった、社会課題解決に貢献する多様な製品やソリューションを開発、提供しています。

## 高所作業車の挟まれ防止システム

建設現場では高所作業車が使用されますが、作業者が梁や構造物に気づかないまま上昇した結果、手すりや構造物の間に手や腕が挟まれたり、体が構造物と操作部や手すりに挟まれ、深刻な事故が発生することがありました。

課題に対応するため、大和ハウス工業株式会社の依頼により、IDECの3ポジションインーブルスイッチや各種センサを搭載した、挟まれ防止システムを開発しました。導入後は身体的な安全性だけでなく、安心感・作業集中・作業効率・使いやすさといった心理的要素も改善し、高所作業に関連する現場の作業者、現場で働く人のウェルビーイングが向上しました。

2023年10月に日本で開催された、第60回全国建設業労働災害防止大会では、1,000件を超える応募の中からこのシステムが唯一の顕彰を受賞しました。



挟まれ防止システムの搭載例

## 生産現場における搬送工程の電動アシスト

ez-Wheelのアシストホイールドライブは、台車を簡単に電動アシスト化し、一人で運ぶことが困難だった重量物搬送の負担を軽減する製品です。自動車メーカーや建機メーカーなど、重量物搬送が多い生産現場では、数百kgを超える部品の搬送作業を人が行っているケースが多くありますが、アシストホイールドライブを導入することで、既存の台車を簡単に電動アシスト化することが可能になります。

採用していただいた大手建機メーカーの事例では、作業員が重い部品を一つずつ人力で運び、900kgの台車を動かしていたため、身体的な負担に加え、効率性や安全性に問題がありました。導入後は一人でも複数の部品を簡単かつ安全に次工程へと搬送できただけでなく、不測の事態でも台車を停止できるようになりました。



IDEC事業所での活用事例

## AGV・AMR向けソリューション

近年、物流・製造業界において、AGV・AMRの導入が加速しています。

ez-Wheelのセーフティホイールドライブは、人と同じエリアで運行する場合に国際安全規格で要求される安全モーション機能など、走行に必要な全ての機能がオールインワンとなった画期的な製品です。緊急時に装置を非常停止させるための非常停止用押ボタンスイッチや、人やモノの接近を検知できるセーフティレーザスキャナ、装置を操作するための制御用操作スイッチなどを組み合わせることで、お客さまごとに異なる多様なニーズに対応することができます。

2024年1月には、離れた場所から安全に装置を停止させることができる、非常停止アシストシステムの販売を開始しました。このシステムは、作業者が装着して使用する「無線スイッチ送信機」のスイッチを押すことで信号を送信し、「無線スイッチ受信機」が信号を受信することで、「操作支援機能付非常停止用押ボタンスイッチ」が動作してボタンを押した時と同じ状態になり、装置を非常停止させることがで



AMRのソリューション事例

きます。人や装置が移動している場合でも操作でき、導入後は危険事象の防止や作業者の安心感の向上、緊急時の停止などで大きな効果が出ています。